

# 当事者の目線「実は〇〇なのです…」

この冊子を作るにあたって、障がいの当事者やその支援者の方々にご協力いただき、インタビューさせて頂きました。イベント開催に関係なく、当事者の方の考え方や小さな困りごとを知ることで、当事者の方の日常を少しだけ想像してみましょ。なお、障がいの程度やその感じ方、受け取り方は人それぞれです。あくまで一例としてお読みください。

## 身体障がい者（車いすユーザー）

### イベントについて



- 会場が椅子だけでテーブル類がない場合、メモをとったりするのが難しい。テーブルなどがあれば嬉しい。
- 一番怖いのは会場に「土足厳禁」と書いている場合。車椅子ユーザーの場合、実はものすごく迷う。タイヤ（=靴）は汚れているし…。タイヤを拭くお手伝い（ボランティア）や、館内用の車椅子に乗りかえできれば安心できる。
- 階段のみの会場だと2階までそもそも行くことができない。
- 車椅子だとトイレの心配はある。多目的トイレがあるところだといいが、あるかどうかは当日になるまでわからないことが多い。チラシなどに一言あればありがたい。
- 電動車いすでは2～3センチぐらいの段差は自力でどうにかできる。でも6センチぐらいの段差になってくると自力でどうにかするのは難しい。他の方の介助があればどうにかできるかも。
- 車いすで机と机の間などを通る時は机をずらすなど柔軟な対応をしてほしい。
- その施設の写真からイベント会場・教室のイメージを膨らませる。主に入口の段差などを見る。
- イベントをする建物の情報、イベント概要、そして自分自身の体験があれば、だいたい自分がそこまでたどり着けそうかイメージできる。

例：4階以上あるしこれぐらいの規模のビルならエレベーターや多目的トイレありそう  
3階以下の建物にはエレベーターないかも…など

### 日常のコト

- 自分でできることは自分で下調べしておきたい。行ってみて初めて気づくこともある。
- その場所やイベントに行けるか、行ってみたいかの判断材料として、同じ車いすユーザーの方の体験談、マップや動画などは有効。
- Google マップよりもより段差などのイメージが沸きやすい Google earth で現地の写真を確認してから出かける。
- 車いすでは行ける場所と行けない場所がある。神社みたいな場所は砂利で空転してしまうので行けない。でも鳥居の見えるところまでとか、行けるとこまで一緒に行けたら嬉しい。